先づ五方を一圖の如く少づゝ切て次に第二圖の五方に切り目ある如く小庖丁目を入れて角よりまるみを付けてむくべし

右出來上りたらば中皿に、白にくわゐ三ツ山にして、右の前へはごいた左に羽根とおくべし

傳染病（一）

醫學士　長瀨複三郎

傳染病と云へは一般に植物性又は動物性の細微体の作用に由て起る疾病てありまして其細菌又は其細菌の排泄物作用によつて一の疾病を起して傳染即ち間接又は直接に他に傳播するものです

其黴菌には種々ありまして例へは植物性の黴菌にはヂフテリヤ菌、結核菌、コレラ菌、ヂブス菌、なとがあります而してヂフテリヤ菌の如きは好んて咽頭喉頭氣管及鼻を起し自己の作る毒素の作用で全身症狀を起し又は心臟の麻痺を起します又結核菌の如きは重に肺に住居を定めて肺を侵し又コレラ菌、チフス菌は主に胃腸を侵して下痢を起します

右のヂフテリヤ菌、結核菌、コレラ菌、チブス菌、なとの樣に病氣の原因になる細菌を病原菌といひます

其病原菌は如何にして人体に入るかといひますとコレラ菌、赤痢菌の樣に重に飲食物又は飲料水等によつて入るものあり又結核菌の樣に空氣中の塵埃と共に人体に入り或は結核患者の咳嗽時に破傷風、ヘスト菌の如く創口から入るものもあります、つまり病原菌の人体に入る道を分けますと一、呼吸器によつて入るもの二、消化器によつて入るもの三、皮膚より入るものゝ三つになります。

病原菌か此等の入口から人体に入りさへすれは必す病氣になるかといふにそれに定まつたものではありません即ち其黴菌が人体に害を與へる丈の力がなければなりません即ち病原菌の働作力が強くなければ病氣を起しません永く日を經たり高熱に逢つた黴菌は毒素又は働作力が少くて害を成すをの弱いものであります

又病原菌か人体に入るのには其の進入する門の開通して居るをが必要であります例へはヂフテリヤ菌にしても咽頭や扁桃腺が荒れ居るものは侵さるゝをが易く結核菌でも健全なる肺の中に入つては働くをは出來ません又これら菌が入て居る水を飲んだ人があつても其胃腸か健全て之を殺す丈の力があれは其黴菌は成長しません例へは枯木に虫のつき易いのと同しことで弱い所のある人には色々の病原菌か入り易く又敵の侵入があつても此方が強ければ十分之を防くことが出來るのと同しく病原菌か入つても体さへ健全であつたならは侵されることはありません

又傳染病は素因と遺傳とに關係があります例へは生來腺病質の人は肺結核にかゝり易く又病氣によつては男よりも女の方がかゝり易い病氣があります斯の樣にある病に對する天然の關係を持て居ることを素因と申します

素因のことをいひましたから序に免疫のことを申しませう即ち如何にしてもある病例へは痘瘡、麻疹等にかゝらない人がありますこれは其病に對する天然の免疫の素因を有するのであります（但し天然免疫の素因はなくても機會がないためにある病にかゝらぬ人もあります）又種痘をしたもの

は天然痘にかゝりませんこれは人工の免疫の素因を得たものであります又麻疹、チブス、猩紅熱、は一度これにかゝると再ひ罹るをの少ないといふのはこの病に對する免疫性を得たのであります

今迄申しましたことから考へて傳染病に對する注意を申しますと第一は黴菌の進入門を開かぬこと　例へは常に咽頭を清潔にして置くとか又腐敗したものや不消化物を食べないて居るとヂフテリヤ菌、チブス菌、セキリ菌、コレラ菌なとは進入することか出來せせん

第二は健全にして進入したる黴菌の力を弱むること　即ちたとひ黴菌か入つても其体か健全てあると其黴菌の力に打ち勝て動作力を弱めることか出來て病氣にはなりませんですから常に体を壯健にして置くことか必要であります

第三は消毒これは前の二つに次て必要てあります即ち大便尿等にある不潔物を消毒すると傳染病毒の傳播を防くことが出來又室内の空氣を清潔にしたり唾は必す唾壺（消毒液を入れたるもの）に吐く樣にすると唾の中にある病毒の飛散を防き又病人の衣服等を消毒すれは其黴菌を撲滅せしめます消毒の方法は高熱に逢はせるとか日光にさらすとか昇汞水石炭酸水等を用ゆるなど色々あります

これから色々の傳染病に付て一々申しませう

A Good life keeps off wrinkles.

善良な生活をする人は皺がよらない